



2025 年 12 月

代 表 糟谷 理恵子

事務局 春日井市石尾台3-11-5

連絡先 090-9899-4499



HP「ハナモモの会」

ブログ
「花咲か作戦」Instagram
「ハナモモの会」

春まで楽しませつわ

春の花苗を花壇にお迎えしました

11月28日、市から提供された花苗を花壇に移植しました。

今年は花壇の大きさに合わせて苗の間隔と数を予め計算して実践したのですが、果たして見栄えに例年との違いが出るか！？花が咲いたら答えが出るでしょう。

昨年はイノシシ害を避けて防鳥ネットを張ったのですが、肝心の見栄えがイマイチ…。ということでネットなしで忌避剤のイオウ粒を吊るすだけで恐る恐る様子見です。



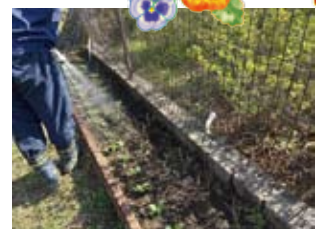
11/10 花壇の花を全て抜去し土留め板の修復も行った



11/20 堆肥を土嚢袋に詰め込んで花壇にスタンバイ



11/28 パンジー（赤・黄・青）ノースポール（白）それに葉の緑が映える花壇になりますようにと願いを込めて



追悼 太田省三さん

当会の前身「高森台県有地の活用を提案する市民の会」の立ち上げメンバーであり、まちづくり（特に防犯）、自然保護に精力的にご尽力されていた太田省三さんが、9月29日逝去されました。享年86歳。会の初期、市民と行政の協働のあり方について勉強会を行っていた時は、当時の伊藤市長や他の行政マンと関係を紡いできた実績から雄弁に語って下さいました。

また「県有林のヒノキの間伐材で桝を造り、落ち葉を集めて堆肥にしよう」という桃源郷プロジェクトとして最初の活動においても、桝の中の温度を測ったりひっそり息づく植物・昆虫に注目したり、自然の小さな営みに気づかせて頂きました。小学生への自然教育にも大変熱心で、小学館の図鑑NEO「飼育と観察」には太田さんが提供した写真や文章が使われています。

2年前のある日、太田さんに呼び出され「不治の病に罹った。あとは無理をせずゆっくりと生きていきます」と告げられて、大変ショックを受けました。



昨年5月ハナモモ苗を引き取った時
ゆっくり話ができただのはこの日が最後

昨年にはご友人から譲り受けて種から丹精に育

てられたハナモモの苗木を「もう世話をする体力がないから」と当会に託されました。立派に育った苗木は、今年の春先に半分をハナモモ斜面に移植し、残りも今シーズンに移植をするつもりです。

呼吸困難で会話が辛くなってからも、この会報に毎回メールで感想を寄せて下さいました。私が知らなかった過去の話や、時には自身の信念に基づく確固としたご意見も。これからも誠実に会の活動を続けていくことで、太田さんへの感謝の気持ちを示していこうと思います。



若々しいご遺影



協働勉強会にも熱心でした

誰のしわざかな？

木が倒されたり枝を折られたり



養楽荘荘長の豊留さんからハナモモの木が倒れていると通報があり、駆けつけてみると 1 本斜面に根を露出し倒れています。前夜の風雨に負けたか、イノシシか!? 急いで修復しました。ついでに周囲の木を見て回るとあちこちに枝が折られ、或は樹皮を剥がされた跡が。こちらは小動物のいたずらか？

今年は例年になくハナモモの実がフルーツの桃のような芳香を放っています。香りに誘われて最近近所の高森山に来ているニホンリスが食べたかな、なんて思うとイノシシ害の時は感じなかったのどこさを覚えました。現金なものです（笑）。ともかく急いで残った実を摘み採って持ち帰りました。



培養土を敷いて
種を埋めました。
発芽するとしたら
再来年の5月頃。
待ち遠しいです。

※リスが犯人だという確証はありません。タヌキかハクビシンかキツネか…野生動物が増えている気配を感じます。

パステルと己書の ワークショップ練習



12月10日、お手入れ活動の時間を利用してワークショップのお試しをしました。以前から会員内で体験会をやって欲しいという要望があり、今後ハナモモまつりの宣伝を兼ねて行うこともありそうなので、「パステル画講師」と「己書師範」がコラボレーション。体験者はいつもの活動メンバーだったので、リラックスして色々試すことができました。



同時に描き方を教わってもこれだけ個性が引き立ちます。
ハナモモまつりにどう結び付けるか…デザインに工夫が必要でしょう。アイデア募集中です。



【寄稿】松本 豊



現在名古屋徳洲会総合病院がある場所にかつてあった二反田池の記録第2弾です。水を抜いて魚すくいやどんど焼き、相撲巡業など楽しい思い出もあれば、少しだけ時代を遡れば出征兵士を小旗の群れで見送った辛い歴史も秘めている池。今は石碑が残るだけです、松本さんは平和への想いを新たにされるようです。

農業用水は玉野町の玉野用水から高蔵寺用水に至り、高座山の山すそ、JR中央線の北側を通って北4丁目のお寺さんの前から西に向かって、高蔵寺中学校の南西角から二反田池に流れ落ちていた。中学校の南西角からは二股になっていて、二反田池と西側方面に分かれて、共栄堂の南側から西に向かって用水が伸び、北1丁目と気噴町の水田まで水を供給していた。

二反田池の水も秋には全部干して野原のようになっていた。池の水を抜くときに「かえどり」と言っ

て魚を捕まえた。鮒や鯉がたくさんいて、タモやバケツを持ってすくい上げていた。冬になると池の中も乾燥して「どんど焼き」をやったり、大相撲の巡業があったそうだ。池の中に土俵を作って相撲興行があった。千代の山の時代だから昭和30年代から40年代のころの話だ。昭和16年12月8日、日本は負けると分かっていて戦争を始めた。召集令状が来て出征兵士たちは高蔵寺駅前からバンザイの声に送られて汽車に乗り、二反田池の土手の上には子供たちが

日の丸小旗を振って見送った。母方の祖父はフィリピンで戦病死し、父方のオジサンは高等師範の学生の時、学徒動員で鹿児島島の知覧から特攻で戦死した。

私の父は大正15年生まれで昭和19年に召集令状が

来て九州の小倉まで行き塹壕を掘っていたら終戦

になった。戦争に負けた国の責務は二度と戦争しない決意と行動しかないと思っている。

続・二反田池と農業用水

